

2017/3/1

## (日々雑感 39)



さすがに昨日の記事（特別篇）は、良きにつけ悪きにつけ、いくらかのインパクトはあったようです。

事のついでに、既述の生活安全課に電話を入れ、ぼくのサイトを紹介した上で、少なくとも記事を読んで事実だけでも見て欲しいとお願いしました。

「忙しいので読めるかどうか？」との返事でしたが、やることをやっておくしかありません。大切なのは以降、何かあった場合に、このように事が起こる前に、ぼくという一市民が複数回報告を上げていたと言う事実を残すことです。軌跡を残して、後で客観的な第三者であろう誰かがその声を聞けるようにプロットしておくことです。一応、法廷に上がることも視野に入れて。

話を変えましょう。

バラ色の楽しい生活があったとします。明るくて楽しげで穏やかな日々。そう本人は感じていて、目の前の映像もそのように感じるようなものが映っています。

ところがそう思っているそのひとからカメラをすーっとひいていくと、そのひとは頭にVRヘッドギア（仮想現実目視装置）をつけているのがまず見えて来、更にカメラをひいていくと、その人の周りは見ている映像と正反対の、見るも恐ろしい真っ暗闇がうつしだされました。そうして最後に一気にカメラをぐーっとひくと、その人は周りが闇だらけの世界の中でたった一人ヘッドギアをつけて口元に笑みを浮かべているという全光景が浮かび上がってきたのです。

なんかこのヘッドギアをつけた人が、今までの自分だったような気がします。

それで、そのことに図らずも気づかされて、慌てて危機管理のモードスイッチをオンにしたのが今。

反対の場合もありそうです。

自分はとても不幸だ。恵まれない。見捨てられている。嫌われていると思いなしている人

がいたとします。目に映っている光景もまるで剣山（花を生ける道具）のようなとげとげしいものに見えています。このひとは別に VR ヘッドギアを物理的につけてはいませんが、頭の中に一種の「思い込み IC チップ」を自ら埋め込んでしまったようで、周りにはすがすがしい朝の光や冷気があったり、力強い樹木があったり、軽やかな小鳥のさえずりなどがあって、自分がそれらに取り囲まれている姿が、そのチップによって遮蔽されたり変形されてたりして、見えなくなっているか、別の姿で見えていることに気づかないでいる、といったような場合です。

このケースでは、この「思い込み IC チップ」のモードスイッチをオフにする必要があるかもしれません。

いずれの場合も可及的速やかにモードスイッチを切り替えないと、大変なことになりそうです。

それ避けるためにはまず、それが仮想現実でしかない、とか思い込み IC チップのせいなのだ、とかに気づく必要があります。

では、どうすれば気づけるのか？

恐らくそれに「気づく」ためには、自分を突き放す目的で、自らを映しているカメラをぐーっとひいて「今世界を見ている自分の視座視点」が世界の中でどのような姿や立ち位置で立っているのかを「いまどこにいるんやろ？」と常時自問の点検チェックをし「こころの GPS 機能」を使って立ち位置確認や軌道の修補正をすることがつくづく大切なのだと、思う今日この頃。

それがこのひと月あまりの流浪生活で得た「大きなお宝」のひとつであるような気がしておる次第であります。